

## 2011-12 年度国際ロータリー第 2690 地区

新地区補助金奨学生 横井和子 / オックスフォード大学大学院修士課程 宗教学専攻

### 第 1 回レポート (2011 年 12 月)

昨日初雪が降り、オックスフォードもすっかり冬景色となりました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。私の方は、第一学期を無事終え、一息ついているところです。今回のレポートではこの 3 か月間における生活面、学業面、そしてロータリーでの活動についてご報告させていただきます。

#### 〈生活面について〉

9 月末にイギリスに到着したとき、こちらでお世話になることになるカウンセラーの方が空港で出迎えてくれ、私が住むことになったウォルフソンカレッジまで連れていってくれました。留学当初からロータリーのお世話になり、無事留学のスタートを切ることができました。まずこのカレッジについてですが、オックスフォード大学に属するカレッジの中でも最も新しいものの一つで大学院生専用の近代的な建物からなります。オックスフォードを思い浮かべたときに連想するようなお城のような建物ではありませんが、教授陣とも同じテーブルを囲み食事をするといった平等主義のカレッジで、私の部屋からは川、そしてその向こうには放牧地が見える自然豊かなカレッジです。カレッジは友人を作る場所として最適であり、専攻や国籍が全く違うカレッジの友人と食事を共にすることは幅広いトピックに目を向けるきっかけともなっています。例えば夕食時の会話が死刑制度の有無、韓国の歴史、生物学といった幅広い分野によく及び、周りの学識の豊かさに驚かされると同時に、私にとっての刺激剤ともなっています。

また、カレッジの他の施設として、専用の図書館は私の部屋から歩いて 30 秒のところに位置しており 24 時間利用可能なので、深夜によく利用しています。その他にもコモンルームで時々友人とお茶をしたり、カレッジ横に流れる川ではオックスフォード・ケンブリッジ名物のパンティング（船遊び）が行われたり、生活全ての機能をカレッジが担っています。学業中心の日々ですが、たまにこうした自然豊かなカレッジ付近を散策したり、コンサートに行ったりしてイギリス文化を堪能しています。

#### 〈学業面について〉

オックスフォードの第一学期は 10 月 9 日から 8 週間という短いものですが、一度授業が始まると目も回る忙しさに寝る時間もままならないほどでした。今学期私が履修した授業は大学生用セミナーと、ユダヤ教・ヒンドゥー教のレクチャー、そしてユダヤ教のチュートリアル（教授と一対一で行われるセミナー）です。授業自体は少ないですが、毎週 2 本エッセイを提出する必要があり、そのために一週間に少なくとも 15 冊ほどを読むという繰り返しでした。宗教学を専攻し始めてから間もない私にとってこの条件はかなりきついものでしたが、その分毎週確実に力がついてくるのを実感することができ、新しい世界がどんどん広がっていくようで、苦しくとも楽しくて仕方ない毎日でした。必修授業の他にも私の

関心のある「科学と宗教」のセミナーに出席したり、様々な講演会に参加することで専攻分野にとらわれずに学問自体への見識を広めることができましたと思います。

また、ドイツ語のクラスも履修していますが、クラスメートの大部分がすでに流暢に話せるので、私も追い付こうと本腰を入れて勉強しています。この他にも第二学期にはサンスクリット語を始める予定です。このように学ぼうと思えば何でも学べる、学問をするのに最適の場所で勉強できることに本当に感謝しています。修士自体は9か月と短いプログラムですが、短距離走のつもりでとことん学ぼうと思っています。

#### 〈ロータリーの活動について〉

さて肝心のロータリーでの活動ですが、私がこちらで属する地区は第1090地区で、その中でも **Bicester** というクラブにお世話になっています。地区自体は全部で約60のクラブからなっており、オックスフォード近郊を中心に構成されています。私のカウセンラーはヨランタ (Jolanta) というポーランド出身のイギリス人女性で、イギリス到着の週に彼女の夫であるラースと一緒に私に会いにきてくれました。その後も週1回ほど電話をくれるなど、何かと気遣ってくれています。こちらで生活し始めてまだ3か月に満ちませんが、いくつかのロータリーの活動に参加させていただきました。

まず、オックスフォードに到着した週末早々、**Rotary Link Weekend** というイギリスへのロータリー留学生全員が集まる行事に参加しました。二泊三日の行程で、地区ガバナーのお話を伺ったり、イギリスのテーマパークを訪れたり、夜にはカントリーダンスをしたりして親睦を深めました。また、この行事の間ホームステイさせていただいたのですが、そのステイ先は姉妹で住まれている家庭で、妹さんの方は以前に市長もされていたとのことでした。ステイ中、その市の環境問題への取り組みなどイギリスの現状を幾分か知ることが出来、とても思い出深いものでした。夜にはコンサートに連れて行ってもらったのですが、町自体ではアラブ系や黒人といった非白人もよく見かけたにも関わらず、コンサートホール内は私以外全員白人という光景に、イギリス内に未だ存在する様々な階級差をつぶさに感じるきっかけともなりました。

10月中旬にはオックスフォードとその付近へ留学している奨学生の顔合わせを兼ねたミーティングがありました。地区全体では全員で10名ですが、オックスフォード大学へ留学しているロータリー奨学生は7名で、大半がアメリカ出身、2名がオーストラリア、そして私が非英語圏からの唯一の留学生です。そのためもあってか、翌週に開かれた地区全体の食事会では私にスピーチをするようにという招待をたくさん受けました。

そしてスピーチについてですが、11月中旬に **Burnham Beeches** というクラブで最初のスピーチをさせて頂きました。スピーチでは私自身、日本の伝統文化、そして第2690地区について30分程度話しました。そのクラブは男性の会員のみだったのですが、義理の日本人の娘さんを持つ方や、ヒンドゥー教の方などが特に親しく話しかけて下さり、今までで最高のスピーチだったという身に余るようなお褒めの言葉をいただきました。二回目は私のホスト先である **Bicester** で話させていただきました。ここでも

多くの質問が挙げられ、津波の影響などの時事問題から富士山は日本人にとってどのような意味を持つのかという哲学的な問いまで様々でした。このほかにも、年始は3回続けてスピーチを行う予定です。

最後に、先日 **Bicester** クラブで行われたクリスマスディナーに参加させていただきました。プディングなどの英国の食事に触れられたのも新鮮でしたが、ここでも有難い人との出会いがありました。ゲストとして参加しておられたイタリア出身の女性とゆっくり話す機会があり、女手一つで息子さんを育て、大学まで行かせることができたといったことを話してくれ、別れるときに「どうぞ素晴らしい人生を」と言ってくれた心からの挨拶が心に残っています。また、私がユダヤ教を勉強していると言ったところ、スロヴァキア出身のユダヤ人のメンバーがイスラエルのお祭りであるハヌカーに招待してくれました。家族やユダヤ人内での繋がりが強いユダヤのお祭りに、全くの部外者の私が参加できる機会を得たのも、ロータリーの奨学生として留学したからに他なりません。このような出会いを与えてくれたロータリーには本当に感謝しています。最後に、私自身は基本的に菜食主義なのですが、今まで参加した殆どのロータリーのミーティングにおいても私用に特別に野菜料理を用意して下さい、こういったロータリアンの細やかな気遣いにも大変感謝しております。

〈最後に〉

冬休みになり、私は運動の意味も込めて毎日中央図書館へ歩いて通っているのですが、その30分間に体が冷え込む分、手にするミルクティーがとてもおいしく感じられます。その通う道には所々野宿者の方がビッグイシュー（野宿者の人が売っている雑誌で、日本にもあります）を手に寒空の下に立っているのをよく目にします。日本でも年々野宿者の若年化が問題となっていますが、こちらでは10代の男の子や妊婦さんも珍しくありません。その一方、私はロータリークラブから新地区補助金の奨学生として留学させていただいたおかげで金銭的に安定するだけでなく、人との繋がりがどんどん広がっていき、そこからまた新しい世界を学べるという非常に恵まれた環境にいると毎日感じずにはいません。オックスフォードで学べる環境に感謝し、今私ができることとして勉学に打ち込み、まだまだ長い道のりですが大学院で学んでいること、現実に目にすることを存分に吸収して考え続け、将来的にそれらを社会に還元していきたいと真に願っています。こうして学べる環境を与えて下さったロータリーに心から感謝いたします。次回のレポートでは1月に参加予定のチャリティーイベントの様子や、3月開催の地区大会の様子などをご報告できればと思います。



11月中旬に行われた奨学生ミーティングにて



プレゼンテーションの様子



食事会にて第 1090 地区 Niall I. Blair ガバナーと

## 第 2 回レポート (2012 年 3 月)

オックスフォードでは桜がすでに散り、早くも新緑の季節となってきました。春の到来に心が弾むのと同時に、留學生活の残り少なさをひしひしとを感じるようになってきました。

さて、今回のレポートでは前回と同じく、生活面と学業面・ロータリーの活動をそれぞれご報告させていただきます。

### 〈生活と学業について〉

12 月中旬に第一回のレポートを書かせて頂きましたが、それから既に 3 か月以上経ったということが信じられないほど目まぐるしい日々が続きました。12 月中旬から約 6 週間の冬休みは修士論文のテーマ決めとドイツ語での読書に費やしました。休暇中もほぼ勉強一色の日々だったのですが、一日だけ完全に休暇を取り、ロンドンのナショナルギャラリーで展示されていたレオナルド・ダヴィンチ展に行ってきました。大作のみではなく、彼の習作が数多く展示されており、天才と呼ばれる彼でもこれほどの練習を積んだのかというその作品が出来上がるまでの過程に圧倒されるばかりでした。第一学期が終わったばかりで疲れていた時に彼の作品に出会えた事は、私も頑張ろうという気持ちを新たに作る機会とな

ったと思います。1月中旬からは第二学期が始まりましたが、睡眠もままならなかった第一学期と比べ、大分余裕をもって勉強を楽しむことができました。その分、更なる英語力の向上の必要性など、以前には見えなかった新たな課題も露わになりました。

ところで、この3か月で一番頭を悩ませたのは修士論文のテーマでした。ぎりぎりまで悩んだ結果、この1年間ほど考えていた「祈り」について書くことにしました。3月11日の津波の後など、人間の力を超える自然の力や惨事を前にし、自身の無力を感じるようなとき、そんな時でもあるいはそんな時だからこそ人間は思わず手を合わせてしまうのかもしれませんが。私が現在学んでいる古代のインドにおいても祈りは存在し、今日の日本まで受け継がれていった歴史があります。そんな、簡単には言葉にならないものが宗教を通して国を超えて伝わっていく背景には何があるのか、ということを経験の観点から考えているところです。短期間で実利的な平和構築に結びつく研究ではありませんが、きっと最も人間らしい行為であるはずの「祈り」を考えることで、現代に生きる私たちが忘れやすい、人やいのちを想うということを蘇らせることにいつか繋げていきたいと考えています。

その第二学期も終わり、現在は春休み中です。エッセイの提出や試験が迫っていることもあり、休暇とは名ばかりですが、たまにクラスメートとお昼を一緒にするなどして、励ましあって楽しく充実した日々を送らせてもらっています。もうすぐ始まる第三学期では授業は行われず、論文執筆中心の日々となりますが、残り少なくなってきた留學生活の最後まで全力で駆け抜けるつもりです。

#### 〈ロータリーの活動について〉

この3か月間、こちらのロータリーを通して色々な経験をさせて頂きました。前回のレポートでも最後に触れましたが、12月末には、ロータリー会員のユダヤ人家庭にお邪魔し、ハヌカーというユダヤ教のお祭りを一緒にお祝いさせて頂きました。そのお祭りの日に食べるというお団子のスープの作り方を教えてもらったり、8日間を通して一日ずつ蝋燭に火を灯していくことの意味を教わったりしました。それにしても、食事の後にその家のお祖父さんが「これから人生の知恵の話をしよう」と言い、2世紀に生きたユダヤの賢人の事をあたかも隣人の事のように話し始めた時は、感動とカルチャーショックの入り混じったような気持ちになりました。日本の例で言うと、いきなり聖徳太子の事を近しい人の事のように話すようなものでしょうか。このほかにも、2月中旬にはオックスフォード近郊にあるお城を訪れました。そのお城を今も管理されている貴族の方から直接その家系図のお話等を聞くことができるなど、なんとも貴重な機会をさせて頂きました。

このような機会をさせて頂いた一方、例会へお邪魔してプレゼンテーションも引き続き3回ほど行わせて頂きました。1月のプレゼンテーションまでは日本の事、鳥取・島根・岡山のこと、そして伝統文化のことを話していたのですが、私が宗教学専攻ということもあってか、日本の宗教について聞かれることが多くなり、最近のプレゼンテーションでは「いただきます」と「ごちそうさま」の文化から日本人の宗教性についてもお話させて頂いています。例会へお邪魔する度に、日本へ行ったことがあるという会員の方がかなりおられ、中には日本のあるベッドタウンを設計したという方や日本の大学で一

時期教鞭をとっておられたという方にもお会いしました。徐々に慣れてきたプレゼンテーションも残すところあと2回となりました。今度のプレゼンテーションでは、季節に絡んだこともお話ししようかと構想を練っています。

最後になりますが、3月の中旬にはロンドンから南へ下ったところのリゾート地で地区大会が開かれ、私も二泊三日で参加してきました。勉強一色の日々から離れ、海辺でゆっくりしたことは本当に体を癒してくれました。地区大会自体も大変充実した内容で、二日目には参加した奨学生全員で壇上にあがり、奨学金プログラムについてこれまでの経歴や選考過程、将来のキャリアなど1時間ほど話しました。地区大会で一番心に残っているのはやはりゲストスピーカーによる講演です。ゲストスピーカーには元政治家で現在テレビキャスターとして活躍されている方や、ビジネスマンなど多種多様でしたが、その中でも Helen & Douglas House とする、イギリス初の子ども用のホスピスを設立された方のお話には感銘を受けました。講演後、少しお話させて頂いたところ、日本でも大阪で同じようなホスピスができることやその設立をお手伝いされていること、彼女のホスピスには天皇陛下もご訪問なされたことなど、いくつもの話を聞かせていただきました。ぜひ見学に来るように誘っていただいたので、日本への帰国までにぜひ一度そのホスピスに伺わせて頂こうと思っています。このように、ロータリークラブの奨学生として派遣していただいたおかげで、思いもかけない新しい出会いに恵まれた3か月でした。出会った方々とのご縁を大切にしながら、私に出来ることをもっともっと追究していこうと思っています。それでは、7月初旬にまた最終レポートを提出させていただきます。



地区大会にて。奨学金プログラムについて1時間ほど話しました。



地区大会でのディナー。今年のテーマは「ビーチパーティー」で、ハワイアンな格好の人が多く見受けられる何とも鮮やかなものでした。



オックスフォード郊外のお城にて。他の奨学生と。



## 最終レポート (2012年7月)

約9カ月に及ぶオックスフォード大学大学院留学を無事に終了し、修士号を取得して7月14日に帰国致しました。今回の最終報告書では、この一年間を通して得た成果を学業面、ロータリー活動の両面から報告させていただきます。

### 〈学業面での成果〉

大学院では一年間を通して宗教学理論、ヒンドゥー教、ユダヤ教を主に学び、特に修士論文ではインドにおけるマントラ【真言】について研究しました。留学開始前には宗教を社会から独立したものだとして個人を基盤に考えていたのですが、特に週一回行われるゼミを通して、いかに宗教が社会や政治と絡み合いながら歴史的に変遷してきたのかを考える機会を与えられました。このことは、今後研究を続けていく中で私の力となってくれると思います。また、ロータリー活動の時間以外の殆ど全てを勉強時間にあてたのですが、英語力の向上や、英語での本の読み方のコツ、クラスメートとの議論を通しての視野の広がり等も学業面での成果だと思います。最後に、クラス内で私のみが完全な非英語圏からの留学生で、英語での学問にデメリットを感じることも多々ありました。しかし、9か月を通して膨大な量の資料を読み込み、無事に試験と修士論文を書き終えたことは私自身にとって大きな自信になりました。

### 〈参加したロータリー活動・プロジェクト内容〉

一年間を通して本当に多くのロータリー活動に参加させていただきました。何よりも回数を重ねたのはやはりロータリークラブを訪問してのスピーチです。日本に対する理解は各ロータリアンによってまちまちだったのですが、ニュース等でよく耳にする東京のことよりも、鳥取・島根・岡山および広島の世界遺産や、「いただきます」等の日本の道徳心についてよく紹介しました。現地の方からはやはり3.11の震災と津波についての質問が圧倒的に多かったのですが、そのほかにも日本経済や日本の哲学についてなどの一歩踏み込んだ質問等もよく聞かれました。スピーチ以外にも、多くの活動へ誘って頂きました。まず、私をホストして下さった **Bicester** クラブでは、中国の新年祝いやクリスマスパーティーへの出席を通して、交友関係を広めることができました。またオックスフォードの地域は留学生用のイベントを多く用意して下さり、近くの宮殿への散策やカーレースへの観光、ロンドンの観光など、他の留学生と親睦を深める機会となりました。一番のメインイベントは地区大会でした。他の留学生と一緒に壇上で約1時間程ロータリーの奨学金について地区のロータリアンの方々にアピールしました。特に私はアジアかつ非英語圏からオックスフォードへの唯一の留学生だったため、日本でのロータリー奨学金の審査過程やその難易度について話すことが求められました。その他にもいくつかのミーティング等に参加させていただきましたが、ロータリー活動そのものを通して得るものが多かっただけでなく、その場での交流を通してお仕事や個人史など（例えばイギリス人が体験した第二次世界大戦）、他では聞けないようなお話を聞かせて頂いたことも私自身にとって学びとなりました。

### 〈直面した課題・問題点〉

学業面での問題点はやはり英語力でした。自分でもある程度自信を持って渡英したつもりでしたが、人文学ということもあり、洗練された英語を使いこなすことが求められる中で、エッセイ等を書くたびにいつも自分自身の英語力の限界を痛感せざるを得ませんでした。この課題はこの一年間で完全に改善されるものではなく、今後の地道な努力が物を言うと思っています。また、ロータリー活動における課題は、活動時間が限られていたことです。渡英する以前は、オックスフォード大学に留学している他のロータリー親善奨学生と独自のプロジェクトを行いたいと考えていました。しかし実際には、私も含め睡眠時間を削らなければ間に合わないほどの勉強量を目の前にして、ロータリー活動への参加が精いっぱい、ホームレス支援などの独自のプロジェクトに至ることはありませんでした。また、何度かチャリティイベントへの参加をお願いされたのですが、いつも学業と日程が被ってしまい、参加することが出来なかったことが心残りです。この件は今後2年間を通して参加しようと考えています。

### 〈今後の課題・キャリア目標〉

この一年間は学問への入門のようなものでしたが、9か月間の集中的な学びを通してさらに宗教学・思想面から平和構築へアプローチをするという目標が明確になりました。そのために、現代の理論を学んだ現在、次のステップとして、古代文献も自力で読み解ける基礎研究能力を徹底的に身につけたいと考えています。そのために、具体的な進路としてはオックスフォード大学の古代インド学 (MPhil in classical Indian religion) という2年間の修士課程に在籍し、サンスクリット語・パーリ語の習得に努めます。今年度の2年間の留学は国費留学という扱いになり、ロータリー親善大使と同様、責任が大変重いものですが、思想面からの平和構築という使命感を持って勉学に励みたいと考えています。

### 〈今後のロータリー活動への参加〉

今秋から再度オックスフォードの方へ留学するという事で、今後2年間は日本でのロータリー活動は限られると思います。一方、オックスフォードのロータリーの方では今後も続けて活動に参加するように仰って頂き、来る10月に行われる2012-2013年度ロータリー奨学生向けのオリエンテーションにもOGとして参加することになっています。このように、今まで出会った縁を大切にしながら、今後も今までと変わることなく、ロータリー活動に頻繁に参加させて頂こうと考えています。

### 〈今後の奨学生への助言〉

恐らくどの国・地域へ留学しても、現地のロータリアンは本当に親身になり、身の回りのことから勉学のことまでアドバイスを下さると思います。特に始めて留学される方にとっては、何もかもが新しく、その中で語学の壁、住居や大学での勉強、友人関係など自分にとって心地の良い環境を作り上げることはしんどいことでもあると思います。そのため、何か困ったことがあればあまり躊躇することなしにカウンセラーさんに助言をお願いしてもいいと思います。ささいなことですが、例えば私は炊飯器が高額

なものだと思い込んでおり、購入することを躊躇していたのですが、現地のロータリアンの方にそのことを話すと、とても安価で買える場所を教えてくださいました。そして、こういう時のお礼になるように、日本のお土産を多めに持って行くのもいいと思います。日本のお茶や食べ物もいいと思いますが、やはり好き嫌いが分かれてしまうので、私は京都で日本らしいハンカチをたくさん購入して、何かある度に渡していました。

言語や生活環境以外では、ロータリー活動と勉学の両立性の難しさが挙げられるかもしれません。私をホストして下さった地域はロータリー奨学生の活発な活動が求められるところで、一週間に二度以上活動が重なることもありました。自分自身にとって過度に負担にならないためにも、前もって準備しておくこと等、タイムマネジメントをしっかりとすることが求められると思います。

最後に、ロータリアンの方々は様々な職種についておられ、世代も様々なので、個人的に仲良くなる自宅に招待してくれたり、個人史を教えてくださいたりする場合があります。私達にとっての異文化の中での人々の生活にこれほど密接に触れる機会はそうそうあるものではないと思います。ぜひ色々な方の話に耳を傾け、人々や社会に対する認識を深めて下さい。

最後になりましたが、ロータリー奨学生としてオックスフォード大学大学院へ留学させて頂き、本当にありがとうございました。小林完治直前ガバナー、カウンセラーの岡山北西 RC 西山隆三郎会長、ホストして下さった Bicester クラブ、現地カウンセラーの Jolanta さんを始め、多くの方のご支援があつてこそ無事に留学生活を終えることができました。奨学生として一年間イギリスで生活したおかげで、単なる学究生活に終わるのではなく、志を同じくする方々と出会う機会を与えて頂き、今後も続くであろうネットワークも築くことができたと思います。今後の2年間は更に専門性をつけるための国費留学となりますが、ロータリー活動にも続けて参加し、新しくオックスフォードへ留学してくる方々の力になればと考えています。私のキャリア目標は、研究者として思想面から平和構築へ貢献するというもので、一人立ちするまでにまだまだ時間はかかりますが、今後も温かく見守っていただければ幸いです。